

未収金目標及び具体取組内容の一覧

所属:港区役所

[illegible]

未収金目標及び具体取組内容調査書

所属	港区役所	担当・事業所名	協働まちづくり推進課	債権整理番号(3ケタ)	001	債権区分	私債権	債権名	附設会館ネーミングライツ契約料
----	------	---------	------------	-------------	-----	------	-----	-----	-----------------

1. 令和7年度の目標（＝未収金残高目標）の達成状況 … いずれかの記号を入力

過年度	A	現年度	A	合計(過年度＋現年度)	A	「A」… 目標達成、「B1」… 取組みは予定通り実施したが目標は未達、「B2」… 取組みを予定通り実施できず目標も未達、「－」… 当年度中に新規発生した債権のため、前年度時点で目標未設定
-----	---	-----	---	-------------	---	---

2. 未収金の推移（実績及び目標） … 色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数 ※当初目標 … 前年度中に設定する当年度の目標

(単位:千円)

過年度分										現年度分						合計			
前年度からの 調定繰越額	年度中の 調定減少額	調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高		調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高	徴収率	整理率	未収金残高
ア ＝前年度ケ [△]	イ ＝ア－ウ (▲＝増加を表す)	ウ	エ	オ	カ ＝イ＋エ＋オ	キ ＝エ÷ウ	ク ＝カ÷ア	ケ ＝ウ－(エ＋オ)		ウ'	エ'	オ'	カ' ＝エ'＋オ'	キ' ＝エ'÷ウ'	ク' ＝カ'÷ウ'	ケ' ＝ウ'－ (エ'＋オ')	キ [△] ＝(エ＋エ') ÷(ウ＋ウ')	ク [△] ＝(カ＋カ') ÷(ア＋ウ')	ケ [△] ＝ケ＋ケ'
A 令和6年度 当初目標	0	0	0	0	0	－	－	0		0	0	0	0	－	－	0	－	－	0
B 令和6年度 修正目標	946	0	946	0	0	0.0%	0.0%	946		0	0	0	0	－	－	0	0.0%	0.0%	946
C 令和6年度 実績	946	0	946	0	0	0.0%	0.0%	946		0	0	0	0	－	－	0	0.0%	0.0%	946
D 令和7年度 計画※	0	0	0	0	0	－	－	0		0	0	0	0	－	－	0	－	－	0
E 令和7年度 目標	946	0	946	0	0	0.0%	0.0%	946		0	0	0	0	－	－	0	0.0%	0.0%	946
F 令和7年度 実績	946	0	946	0	0	0.0%	0.0%	946		0	0	0	0	－	－	0	0.0%	0.0%	946
G 令和8年度 計画※	0	0	0	0	0	－	－	0		0	0	0	0	－	－	0	－	－	0
H 令和8年度 目標	946	0	946	0	0	0.0%	0.0%	946		0	0	0	0	－	－	0	0.0%	0.0%	946
I 令和9年度 計画※	0	0	0	0	0	－	－	0		0	0	0	0	－	－	0	－	－	0

※「新・市政改革プラン」の期間(令和6～9年度)に合わせて設定した「中期目標」の達成に向けて、各所属で策定した年度毎の計画

3. 令和7年度の取組実績・課題・改善策など

令和7年度の取組実績

過年 官報を確認し法人が破産していないかを確認した(一破産は確認されていない)
令和7年12月 再度督促状発布
令和8年3月 法人登記の再取得(現況確認)

課題と改善策

【課題】

・相手方との接触がとれない
・会社は破産していない

【改善策】

・官報の確認を継続し、破産の確認等を行いつつ、策電、訪問及び手紙などで督促を行う。
・引き続き債権管理・回収アドバイザーへ相談等を行いながら、適切に債権管理・回収を実施する。

4. 令和8年度の取組内容 … 「1. 令和7年度の目標(＝未収金残高目標)の達成状況」及び「3. 令和7年度の取組内容の検証など」の内容を踏まえて記載

未収金の解消に向けた取組

・官報の確認を継続し、破産の確認等を行いつつ、策電、訪問及び手紙などで督促を行う。
・引き続き債権管理・回収アドバイザーへ相談等を行いながら、適切に債権管理・回収を実施する。
令和8年7月予定 再度督促状発布
令和9年3月予定 法人登記の再取得(現況確認)

未収金の発生抑制に向けた取組

・別途ネーミングライツパートナー協定を結んだ場合、納期限を厳守するように伝えるとともに、納期限を超える場合、密に督促を行い、新たな未収金を発生させない。

5. 令和7年度決算見込における未収金実績の状況（区分別の未収債権の件数・未収金残高、債務者数） …… 未収債権の件数及び債務者数については、色付け箇所のみ、整数で入力。未収金残高については、色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数で入力

		回収債権									整理債権								合計	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯			
分類		滞納発生直後のもの (督促状未送付のもの)	督促状送付後、各種催告中又は 納付交渉中のもの	督促状送付後、各種処分に向けて、財産調査中 又は 行方不明等で所在など調査中 又は 個人債務者が死亡したため、相続人調査中のもの	【強制公】差押手続中のもの 又は 交付要求中のもの 【非・私】債務名義取得のため法的手続中のもの	【強制公】差押え後、換価手続中 又は 換価予定のもの 【非・私】債務名義の取得後、強制執行中 又は 強制執行予定のもの	換価猶予等又は履行延期の特約等又は分納契約により、分割納付中であり、現在の分割納付額で、10年以内の完納見込があるもの	換価猶予等又は履行延期の特約等又は分納契約により、分割納付中だが、現在の分割納付額では、完納まで10年以上要するもの	換価猶予等又は履行延期の特約等により、債務者の資力回復を待ったため、納付を猶予(期限延長)しているもの	換価猶予等又は履行延期の特約等又は分納契約を行ったが、分割納付の履行が滞り、再度、納付交渉中のもの	【強制公】差押えを行ったが、換価見込のないもの 又は 換価済だが、未収金が残り、回収見込みがないもの 【非・私】債務名義を取得したが、債務者の財産少額により、強制執行見込のないもの	所在など調査後なお行方不明等 又は 相続人調査後なお相続人未確定 若しくは 相続人不存在確定だが、停止の判断に至れていないもの	債務者の代理人から債務整理の委任通知が届いているもの 又は 債務者が破産手続中のもの	債務者が破産免責決定を受けたもの	【強制公】法に基づく滞納処分の停止の決議を行っているもの 【非・私】債務者が無資力だが、納付交渉に応じず、履行延期の特約等を行えないもの	【強制公】債務者が生活困窮中だが、債権の特性上、停止の決議を行えないもの	消滅時効期間が経過しているもの			
																		残高の合計 ＝ 上記2のF (令7実績) のケ及びケ' ※ 残高の数字の一致を確認の上、提出。 ただし四捨五入に伴う不一致の場合は除く。 (その場合は、不一致となった合計欄のセルを黄色く塗りつぶして提出)		
	過年度	未収債権の件数			1						1								0	1
	過年度	未収金残高			946						946								0	946
	現年度	未収債権の件数			0						0								0	0
現年度	未収金残高			0						0								0	0	

【未収債権の件数及び債務者数並びに分類の考え方】

① 未収債権の件数は、原則、測定件数とする。測定をまとめて行っている場合は、事実上の債権の件数とする。（例：毎月の定期給付債権の場合、1人の債務者につき、1年間で12件の債権が発生していることとなる。）

② 1つの債権に、連帯債務者や連帯保証人が設定されている場合であっても、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考え、3の表は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。

③ 債務者が死亡した場合で、相続人が複数いる場合、相続割合に従い、債務が相続される（債務が分割して相続される）が、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考える。

それぞれの相続人で、未収債権の状況が異なっている場合、3の表は、相続された債務額の最も大きい相続人の状況で分類する。同額の場合は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。

※ 未収債権の進捗状況 …… ① → ② → ③ ⇒ 回収債権：④ → ⑤ 又は ⑥ 又は ⑦ 又は ⑧ 又は ⑨ / 整理債権：⑩ 又は ⑪ 又は ⑫ → ⑬ → ⑭ 又は ⑮ → ⑯

令和7年度
決算見込に
おける
債務者数

1

人

令和7年度決算見込における
未収債権の件数(過年度+現年度)

1

令和7年度決算見込における
未収金残高(過年度+現年度)
＝ 上記2のF(「令7実績」のケ)

946